

教科（科目）	芸術（音楽Ⅰ）	単位数	2	学年（系）	4学年（選択）
使用教科書	MOUSA1（教育芸術社）				
副教材等					

1 学習目標

音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

2 指導の重点

- ・音楽の仕組みを理解し、表現する。
- ・多様な音楽文化、表現形態を経験する。

3 指導計画

月	単元名	教材	学習活動（指導内容）	時間	備考
4	歌唱（3） 合唱（3）	右記の内容に該当する項目	○オリエンテーション ○発声練習 ○姿勢、呼吸、発音などに注意して行なう。 ○パート練習	5	
5	合唱（4） ボディーパー カッション （4）	同上	○発声練習、パート練習、合わせ ○体を使ったリズム練習、合わせ。	7	各自のパートを責任をもって歌う。リズムの正確さを評価に含む。
6	歌唱（4） 鑑賞（4）	同上	○発声練習、曲に応じた発声の工夫、表現の工夫 ○西洋音楽史を鑑賞から体得（古代、ルネッサンス、バロック）（CD） ○ヨーロッパの音楽の聴き比べ。	8	独唱を評価 鑑賞の感想文を評価
7	合唱（4）	同上	○ステージ発表を目的とした練習（発声、パート練習）	4	
9	合唱（6） 鑑賞（2）	同上	○ステージ発表を目的とした練習（発声、パート練習） ○西洋音楽史（古典、ロマン派）（CD）	7	鑑賞の感想文を評価
10	合唱（4） 器楽（4）	同上	○ステージ発表（パート同士の練り上げ、仕上げ、発表） ○ギター（チューニング、コード練習）	8	合唱団としての責任を果たせたか評価の対象
11	器楽（4） 鑑賞（4）	同上	○ギター（曲に合わせたコード練習） ○テスト ○西洋音楽史（近代、現代）（CD）（DVD）	8	ギターテスト評価 鑑賞の感想文評価
12	歌唱（4） 鑑賞（2）	同上	○イタリア歌曲（発声、イタリア語読み）練習 ○「ミュージカル」鑑賞（DVD）	6	
1	鑑賞（2） 歌唱（4）	同上	○「ミュージカル」鑑賞（DVD） ○イタリア歌曲（音程、歌詞、表現の工夫） ○テスト	6	イタリア歌曲テスト
2	鑑賞（3）	同上	○日本の音楽 ○世界の音楽	6	鑑賞の感想文評価

	合唱、自由作品（3）		○合唱 ○自由作品（創作）		
3	合唱、自由作品（6）	同上		5	

計70時間（48分授業）

4 課題・提出物等

鑑賞のレポートを必ず提出してください。実技テストに向けての練習は各自行ってください。

5 評価規準と評価方法

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力	評価規準
音楽や音楽文化に関心をもち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽をつくるかについて表現意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。	<評定> 各観点の合計点達成率 5…80%以上 4…70%以上 3…50%以上 2…40%以上 1…40%未満
以上の観点を踏まえ、授業への取り組み（授業態度、学習活動への参加状況）、実技テスト、提出課題などから総合的に評価します。				

6 担当者からの一言

幅広い音楽表現の中で自分自身を磨いてくれたらと、願っています。

教科（科目）	芸術（美術Ⅰ）	単位数	2	学年（系）	4学年（選択）
使用教科書	Art and You 創造の世界へ（日本文教出版）				
副教材等					

1 学習目標

美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。また、物を使うだけではなく自分で物作りをする達成感を得る。

2 指導の重点

- ・表現活動における「人」「もの」「こと」との関わりから、表現活動の基礎的能力の育成を図る。
- ・一人ひとりの特性や個性を尊重し、独創的かつ個性的な表現方法の基礎的能力を育む。
- ・表現と鑑賞の一体的な関係性を考慮し、学習環境のデザイン化を図る。
- ・作品の独自性、密度の高さ丁寧な細工を重視する。

3 指導計画

月	単元名	教材	学習活動（指導内容）	時間	備考
4 5 6	「アナモルフオーシス」 （歪み絵）	・元の絵を分かりにくくするデザインの工夫 ・方眼の座標を丁寧に読み取る ・文化祭に出品	○下絵を方眼紙の座標に合わせて扇状に歪ませる。 ○歪ませた絵を画用紙に写し、彩色する。 ○扇状の絵に鏡面の筒を置き、正しい像が映るか確認する。	20	方眼紙 扇型の方眼紙 ミラーシート アクリル絵の具 他
7 9	「プッシュスタンド」 （紙製のスタンドグラス）	・スタンドグラスの色、形にあったデザインの工夫 ・配色・混色の工夫 ・文化祭に出品	○台紙を切り抜き、枠を作る。 ○切り抜いた部分にカラーフィルムを押し付け、彩色する。	12	台紙 カラーフィルム アルミホイル
10 11	「オブジェ」 （細い木材を用いた立体構成）	・完成品を意識した設計の工夫	○木材を一定の長さに切り分ける。 ○切った木材を2つずつ接着し、同じ形のパーツを作る。 ○全てのパーツを組み合わせ、1つの立体物を構成する。	14	ひのき棒 木工用ボンド
12 1	「指輪」 （金属製）	・鑄造の成功 ・複雑なデザインの鑄造	○ワックスを削り、指輪の原型を作る。 ○石膏で原型の型を取り、金属を流し込む。	12	指輪制作セット
2 3	「水墨画」	・描画材料の理解 ・水墨を生かしたテーマの設定	○「竹」や「馬」などの例題を通して、筆と水墨の使い方を練習する。 ○自分のテーマを設定し自由制作を完成させる。	12	筆 墨 半紙

計70時間（48分授業）

4 課題・提出物等

授業で制作した物、指示があった物は必ず提出してください。

5 評価規準と評価方法

美術への 関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力	評価規準
美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて、表現方法を工夫して表している。	美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。	<評定> 各観点の合計点達成率 5…80%以上 4…70%以上 3…50%以上 2…40%以上 1…40%未満
以上の観点を踏まえ、授業への取り組み（授業態度、表現や鑑賞への姿勢など）、提出作品の内容、完成度などから総合的に評価します。				

6 担当者からの一言

自分自身が制作者の立場に立って、一生懸命に作品制作をしましょう。

教科（科目）	芸術（書道Ⅰ）	単位数	2	学年（系）	4学年（選択）
使用教科書	『書Ⅰ』（教育図書）				
副教材等					

1 学習目標

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

2 指導の重点

- ・漢字の学習では、さまざまな書風にふれることによって鑑賞と表現の能力を高める。
- ・仮名の学習では、その成り立ちを理解し、美しさや表現方法を学んでいく。
- ・漢字仮名交じりの書の学習では、身近にある題材や自らの思いや感動を表す語句を選んで表現し、芸術的な表現を高める。
- ・鑑賞では、見ることを楽しみ、書の見しさや表現効果を味わい、書の伝統や文化についての理解を深める。

3 指導計画

月	単元名	教材	学習活動（指導内容）	時間	備考
4	書へのいざない 漢字の書の学習	右記の内容に該当する項目	○芸術としての「書」について知る ○楷書の古典を臨書する	5	
5	漢字の書の学習	同上	○楷書の古典の臨書する ○行書の古典の臨書する	7	
6	漢字の書の学習	同上	○行書の古典の臨書する ○表現を工夫して書く	8	
7	漢字仮名交じりの書の学習	同上	○表現を工夫して書く(文化祭の制作)	4	
9	漢字の書の学習	同上	○篆刻について知る ○印をはる（文化祭の制作）	7	
10	仮名の書の学習	同上	○仮名の基本用筆を練習する ○平安時代～鎌倉時代の古筆を臨書する	8	
11		同上	○平安時代～鎌倉時代の古筆を臨書する	8	
12	漢字仮名交じりの書の学習	同上	○はがきやのし袋の書き方について理解し、ていねいに書く	6	
1	仮名の書の学習	同上	○俳句や短歌を使い、仮名の創作する	6	
2	漢字仮名交じりの書の学習	同上	○漢字と仮名の調和に注意して硬筆で書く	6	
3	創作	同上	○これまでの学習をもとに線質や構成などを工夫し、自分らしく表現する	5	

計70時間（48分授業）

4 課題・提出物等

授業で書いた物や篆刻で彫った印などを必ず提出する。

5 評価規準と評価方法

書への関心・意欲 ・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技 能	鑑賞の能力	評価規準
書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。	<評定> 各観点の合計点達成率 5…80%以上 4…70%以上 3…50%以上 2…40%以上 1…40%未満
以上の観点を踏まえ、授業への取り組み（授業態度、表現や鑑賞への姿勢など）、提出作品の内容、完成度などから総合的に評価します。				

6 担当者からの一言

書道Ⅰでは、これまで小・中学校で習ってきた書写の能力を向上させることの他に、古人の書を対象に、様々な書の美に触れ、感性を磨いていてもらいたい。そしてこれらの活動を通じて自己表現することの楽しさを実感してもらいたい。